

科目名	情報技術演習Ⅱ				
担当者	白尾 克己 (SHIRAO,Katsumi)				
授業形態	演習	単位数	2単位	開講期	後期
科目コード	CM060g41TU2				
科目群	共通_4群				
必修・選択	選択				
配当年次	1				
教育プログラム	Society5.0基礎プログラム必修科目				

授業内容	ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーション、データベースの各分野のソフトウェアの利用方法を中心に講義を行う。情報技術演習で学んだ基礎をもとに、より高度な活用のために“情報を上手に表現する技術”について演習を重ね、今後の社会に必要とされるデータ分析・活用能力を育成する。演習用の単純なデータだけでなく、統計局や企業提供のデータなど、より現実に近いデータを使った分析も行なう。データ例のひとつとして、本学が協定を結んでいる中小企業家同友会の提供するものを用い、企業の問題解決に資するようなデータ分析演習となるようにしたい。データ処理の場面では、著作権や情報セキュリティなど、情報の取り扱いにも注意を払い、情報モラルに沿った活用となるよう指導する。
授業の到達目標	・ ワードプロを利用し目的に応じた文書作成ができるようになる。 ・ 表計算ソフトを利用し情報の備蓄、加工、分析ができるようになる。 ・ プレゼンソフトを利用し印象的で説得力のある資料作成ができるようになる。 ・ データベースの仕組みを理解し、簡単なRDBを作成・データ操作ができるようになる。 ・ 複数のソフトを組み合わせ、目的に応じた情報処理ができるようになる。 ・ 良質な情報モラルを保ち、適切なデータ活用ができるようになる。

授業計画		担当者
第1回	講義についての紹介、コンピュータの基本操作のおさらい データの活用における、著作権や情報セキュリティ、情報倫理(情報モラル)について	白尾
第2回	ワードプロ1(基本操作)	白尾
第3回	ワードプロ2(応用操作)	白尾
第4回	ワードプロ3(応用操作) 大部の書類(長文ドキュメント)を作成するときの機能について	白尾
第5回	表計算ソフト1(基本操作)	白尾
第6回	表計算ソフト2(基本操作)	白尾
第7回	表計算ソフト3(応用操作) 外部データの取り込みやデータの書き出し、共有	白尾
第8回	表計算ソフト4(応用操作) 実際の企業データを用いた表計算ソフトの活用	白尾
第9回	プレゼンテーション・ソフト1(基本操作)	白尾
第10回	プレゼンテーション・ソフト2(応用操作) 分析したデータ等をわかりやすく提示できるような資料の作成	白尾
第11回	データベース1(基本操作)	白尾
第12回	データベース2(応用操作)	白尾
第13回	データベース3(応用操作) DBのリレーショナル機能を使って、売り上げ管理のDBを作成	白尾
第14回	各種ソフトを組み合わせた情報処理1	白尾
第15回	各種ソフトを組み合わせた情報処理2、総まとめ	白尾

授業に含まれる活動	ディスカッション・ 討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	（その他の活動）
	○	○	○		コンピュータ機器の操作
事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・用語は辞書等で事前に調べておくこと。 ・時限ごとの目標を自ら立てておくこと。			事前学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・分からなかった用語は必ず調べておくこと。 ・課題は必ず取り組み、期限までに提出すること。 ・時限ごとの目標に対して、必ず振り返りを行うこと。			事後学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	主にMoodleを用いる。				
質問・相談方法	講義内、講義後に質問を受け付ける。 時間を要する場合は、オフィスアワー時に対応する。				
使用教材	講義時に提示する。				
参考文献	参考文献は適宜紹介する。				
成績評価基準	授業の到達目標としてあげた知識・技術・必要性を理解し、ソフトウェアごとの特徴・機能をとらえた選択・基本操作を行なえるものは合格とする。				
成績評価の方法	途中の小テスト(30%)、課題(30%)、試験・レポート*(40%)で評価する。 *レポートでは、読書課題と重ね合わせ、情報技術の動向や将来性を各自考察する。				
GPA基準					
備考	・情報技術演習(旧：インターネット演習)の単位を修得済みであることが履修登録の条件である(前期クラスは、1年生は受講できない)。企業提供の実データをもとに、より実践的なデータ分析を体験してもらう予定である。 ・ソフトウェアは機能面・実行精度・操作性などから専門性をもつ。情報処理プロセス(計画・実施・分析・説明)に合ったソフトウェアを利活用できる能力を身につけること。				
<担当教員の実務経験と授業との関連>	SEとしてのシステム提案や開発・導入の経験から、各ソフトウェアを利活用できるタイミングや効果、実績などを具体的に紹介することで、各種ソフトに対する興味を深める。				
<読書課題の成績評価方法>	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。				
資格情報					
授業の実施方法	対面授業を実施します。対面授業が実施困難な場合は原則休講とし、後日補講等を行います。				